平成25年度　　矢掛町立山田小学校学校評価書

【　本校のミッション　】	学校運営協議会委員	学級数	8学級	児童数	79人
楽しい学校　勉強がわかる学校 ①学力をしっかりつける学校 ②一人一人が大切にされる学校 ③たくましい体と豊かな心を養う学校 ④家庭・地域とつながる学校	池田ひろみ （学識経験者）　　池田　勝 （小学校PTA） 田口博久 （地域コーディネーター）　武田 真佐子 （民生児童委員） 国司芳子 （ボランティア）　顧問：尾島　卓（学識経験者）	職員数	15人	家庭数	56戸

A成果をあげている　Bほぼ成果をあげている　Cあまり成果をあげていない　D成果をあげていない

		中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自 己 評 価	評価
1	学力をしっかりつける学校	学ぶ意欲を高め理解を深める授業づくりをする。	「教えて考えさせる授業」「特別支援教育の観点を取り入れた授業」の充実を図る。	校内研修や授業研究によって指導法を改善する。	アンケートにより，授業が楽しい児童が80%を超える。	アンケートの結果によると，授業が楽しいと感じている児童が 89%である。子どもが楽しいと感じていると答えている保護者が，92%いる。教師も「教えて考えさせる」授業研究やアセスメントシートの研修・分析に取り組み，みんなが分かる授業を目指している。	A
2		国語と算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	当該学年の国語と算数の基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上になるようにする。	T・Tでの朝の学習・わかるタイムを行い，繰り返し指導をする。 読解力を付ける内容を選定して指導する。	当該学年の国語と算数の基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童が80%を超える。	朝の学習，わかるタイムでは，ボランティアの協力を得て繰り返し学習することができた。基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童は，国語78．7%，算数73.5%であった。引き続き，時間の確保・内容の選定・指導法の工夫をして定着率が上がるように努めていきたい。	C
3		コミュニケーション能力の育成を図る。	全教育活動の中でコミュニケーション能力を育成する。	自分の考えを書いたり説明したりする場を多く設定する。 また，全町で4年生児童を対象に合同授業を実施する。 全体の場で発表する機会を設ける。	アンケートにより，自分の考えを分かりやすく書いたり発表したりしようと努力している児童が80%を超える	授業で，自分の考えを書いたり説明したりする機会を多く設定した。自分の考えが発表しやすいように，基本的な話型を指導した。また，クラスでのフリートークや全体の場で発表する機会を意図的に設け，自分の考えや思いを表現できるようにしてきた。結果，考えを分かりやすく発表しようとする児童が82%いた。4年生対象の合同授業では，多人数の中で発表し，自信を持つ児童がいた。	B
4		家庭学習の充実を図る。	学年にあった家庭学習を提示し，学習への意欲をもたせたり理解を深めたりする。	家庭学習時間（10分×学年）を考えて家庭学習の内容を考える。 読書量を増やす。	アンケートにより，家庭学習時間（10分×学年）以上している児童が，　70%を超える。 全校で年間2500冊（①500②1000③1000）を超える。	「家庭学習の手引き」を保護者に説明し配付することで徹底を図っている。また，教師間で共通理解を図り，機会をとらえて児童に指導している。83%の児童が，10分×学年以上の学習時間を確保している。児童の実態により時間に差があるので，自主的な学習の定着を図っていきたい。10月中旬で，1537冊の貸し出しがあった。今後，どんどん読書やぶっくるのクラスへの貸し出しなど，読書環境を整え，読書量を確保していきたい。	B
5	一人一人が大切にされる学校	特別支援教育の充実を図る。	個々の児童の実態を共通理解し，児童の困り感に応じた指導を目指す。特別支援学級の増設により，更にきめ細やかな支援を目指す。	生徒指導終礼及びケース会議などで連絡を密にしたり，専門家の意見を参考にしたりすることによって，よりきめ細かい個別指導をする。	週一度生徒指導終礼及び必要に応じケース会議を行い，児童の実態や困り感を共通理解し，児童の心の安定を図ることができたか。	生徒指導終礼で困り感のある児童への共通理解が図れており，支援が必要な児童に関してはきめ細かく全職員で対応している。今年度から特別支援学級が2クラスになり，よりきめ細かい個別指導が出来ている。しかしまだ，普通学級には個別の学習支援を必要とする児童や突発的な行動を起こす児童も1割以上おり，その対応への人的不足等が問題となっている。現状では，支援を必要とする児童への効果的な指導が出来ているとは言いにくいため，免許を有する教員の増員が望ましい。	C
6		いじめや不登校の生まれない環境整備をし，積極的な対応に取り組む。	何でも話すことのできる雰囲気作りに努め一人ひとりが大切にされる学級づくりや学校づくりを行う。	学級では 「よいところ探し・ クラス遊び」 全校では 「縦割り班活動・なかよし集会」 等を企画・運営する。 遅刻が多い児童等不登校予備軍について，専門機関と連携しながら対応し，不登校化を防ぐ。	なかよくなるカードのアンケートで，「学校が楽しい」と感じている児童が，80%を超える。 いじめゼロ。　不登校ゼロ。	業間・昼休みに仲良くクラス遊びをしたり，異学年で遊んだりする姿が多く見られている。縦割り班活動では，高学年が低学年の世話を優しく行えている。なかよくなるカードでは「学校が楽しい」「どちらかといえば楽しい」を合わせて約98%であった。 不登校予備軍の児童には，学校のケース検討会議で対策を検討し，全職員が連携して指導にあたっている。	B
7		子どもの心に寄り添う教育相談や支援を行う。	児童の生活を見守り，児童の心のサインを見逃さない努力をする。問題があれば学校全体で解決にあたる。	なかよくなるカードのアンケートを基に教育相談日を学期1回設ける。	教育相談等で児童の話をよく聞き信頼関係づくりができたか。	児童のアンケートによると90%以上が「先生は自分の話を聞いてくれる」「先生は，一人一人を大切にしていて，自分が仲間はずれやいじめにあった時，助けてくれると思う」と感じている。また，学期に1回の教育相談日を設けて児童一人一人と話し，相談に応じている。問題があれば，生徒指導終礼等で話し合い，学校全体で対応している。	A
8	たくましい体と豊かな心を養う学校	外遊びを奨励し，進んで体を鍛えようとする態度を育てる。	友達と楽しく体を動かす子どもを育てるとともに，自ら進んで体力を向上させようとする態度を育てる。	元気タイム（月2回）を設け，体を鍛えるとともに運動に親しむ子どもをそだてる。名人への道の得点の高い児童について表彰する。昨年度の新体力テストの結果から，全国平均に比べて体の柔らかさ・力強さが劣っている。それらの強化を図る。そして，今年度との比較をする。	アンケートにより，「学校で進んで外スポーツを楽しんだり，外でしっかり遊んでいる」に当てはまる児童が学校全体の80%以上になったか。	アンケート結果から，「学校では，進んでスポーツを楽しんだり外でしっかり遊んだりしている」に当てはまる児童が89%いた。また，元気タイムを，1学期に6回，2学期に5回実施している。元気タイムの時間を楽しみにしている児童も多く，休み時間に竹馬をしたり，一輪車をしたりしている姿も見られ，元気タイム以外の時間にも”名人への道”に取り組めている。教師だけでなく，上級生が下級生に教えてあげる姿も当たり前にみられる。休み時間になると進んで外遊びをしている姿がみられるが，遊び方が固定されているので，今後はいろいろな遊び方を紹介していきたい。	A
9		基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あはは」（あいさつ・はきものそろえ・「はい」の返事）の運動を充実させる。 早寝，早起き，朝ご飯の生活習慣を定着させる。	「矢掛町あはは」を毎日唱え意識を高めたり，学級懇談等で実施を推奨したりする。 地域・行政との連携を保ちながら食に関する意識を高めていく。その中で長期休業中にチャレンジクッキング・親子料理教室を計画する。 元気アップカードを作成し，実施することで，より望ましい生活習慣が身に付くように，テレビ・ゲームの視聴の仕方の項目を増やし，児童保護者に対して，指導啓発する。	「早寝　早起き　朝ご飯」の習慣が定着してきているか。元気アップカード得点7割以上達成できる子が学校全体の80%以上になったか。テレビ・ゲームの視聴の仕方について，関心・意欲が高まったか。 食に関して関心・意欲が高まったか。 「矢掛町あはは」運動の意識が高まり，実践できているか。保護者・児童のアンケートで，できているが80%以上になったか。	「早寝・早起き」は保護者とともに決めた時間が守れている児童が「早寝」は60%「早起き」は75%と80%以上を達成できていない。習い事等で帰りが遅くなって遅寝・遅起きになってしまう児童も多い。「朝ごはん」は毎日食べてきている児童は90%おり，朝食の内容も主食＋α のバランスの良い朝食摂取ができている。今年度の元気アップカードに「食事中のノーテレビ」の項目を新しく入れたが，7割以上の達成者が60%と低いため，健康委員会の活動やほけんだより，掲示物等でテレビやゲームの害について啓発を行っている。12月の学校保健委員会では「メディアとの正しい付き合い方」をテーマに開催を予定している。今後も継続した指導啓発を行っていきたい。「矢掛町あはは」運動は，保護者，児童アンケートともに「あいさつができる」「はいと返事ができる」と答えたのは全体の90%以上であった。「はきものを揃えることができる」と答えたのは，児童が90%以上であったが，保護者は約80%であった。今後も各学年で履物揃えの点検をしたり，朝の会で「矢掛町のあはは」を唱えたりするなど，日常的に指導し，児童に意識づけさせていきたい。	B
10	家庭・地域とつながる学校	保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。	学校情報の積極的な情報公開に努める。	学校経営がよくわかる便りを月1回以上出し，年間7回以上は全戸配布する。ホームページ上で学校の情報を発信する。また，ブログを利用し，情報を頻繁に発信する。	学校だよりが年間12回以上発刊できたか。年間7回以上全戸配布できたか。　毎月2回以上ブログの更新ができたか。	学校だよりは，毎月発行し本年度は既に5回全戸配付した。ブログについては，週あたり数回のペースで更新できている。学校評価アンケート（保護者）結果から，学校からの情報がよくつたわっているという数値が92%（昨年度と同じ）あったのは良い傾向にある。	A
11		外部ボランティアとの連携を深める。	保護者・地域の方等に教育活動への参加を呼びかける。	矢掛町学校支援推進本部との連携を深め，学校行事・授業への積極的な参加ができるようにする。 「学習アシスト型授業」を実施し，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	「学習アシスト型授業」「水やりボランティア」「環境整備支援ボランティア」「安全パトロール」等，外部ボランティアの活動を増やし，「支援者リスト」の支援者数が増やせたか。 「学習アシスト型授業」を2学年以上で実施することができたか。また，教師や児童の感想等でその効果が認められたか。	学習アシスト型授業は，5年生総合学習（アスパラの収穫体験や調理）や5・6年生家庭科ミシン学習で実践することができた。水やりボランティアも14名（昨年比＋2）の方にご協力をいただいて，校庭の栽培環境は美しく整えられている。また，児童の下校時の安全確保のため，安全パトロールに14名の方が常時参加していただいた。また，環境支援ボランティアとして，茶畑その他の草刈をしていただき，学習環境が整ってきた。学校評価アンケート（児童）結果から，89%の児童がボランティアの支援をとても歓迎していることがわかった。	A

分 析 ・ 改 善 方 策

学力向上については，算数たしかめテストや岡山県到達度確認テストなどを各学年で実施し，その結果の分析を踏まえながら基礎基本の定着を図り，児童のつまずきを解消していく実践を継続していく。また，互いに学びあう学級づくりを目指していく中で，どの児童にも分かる授業を行うことで，学力向上を図りたい。コミュニケーション能力の育成については，全国学習調査やベネッセの調査から数年前より本校の課題となっている。4年生以上は「フリートーク」や「全校スピーチ」に継続して取り組み，効果をあげている。話す力は，着実についてきた。書く活動をより多く取り入れ，書く力もつけていきたい。また，全校で基本的な話型を統一して，定着を目指して指導している。本年度は特別支援学級の増設により，よりきめ細かい支援ができるようになった。通常学級における特別支援教育の充実のために，本年度よりアセスメントシートを全学年で実施して，その結果や分析方法についての研修を行った。その結果，学習集団と気になる児童についての総合的な把握が可能になり，学習指導案や学級経営等に有効に生かすことができた。しかし，通常学級の児童で支援を必要とする児童も年々増加傾向にあり，その指導については十分な対応がとれているとは言い難い。そのためにも，教員の増員が望ましいと考えている。不登校傾向にある児童については，専門機関と連携しながら必要に応じてケース会議を行い，効果的な方策の検討を継続して行いたい。早寝・早起きの習慣作りやあいさつについては，継続してPTAの主体的な取組と連携しながら児童の生活習慣の改善を推進していきたい。

学 校 関 係 者 評 価

教えて考えさせる授業の研究により指導法を改善したり，朝学習やわかるタイムで基礎的・基本的な内容を繰り返し指導して，学力の定着を図っている。.国語・算数の学力は全国平均と比べおおむねよいが，部分的に下がっているところがある。引き続き確かめテストや到達度確認テストなどを実施し，児童のつまずきを見つけ，解消していくことが必要である。コミュニケーション能力は，さまざまな取り組みにより次第に力をつけている。学力向上のための方策としてタブレット端末の導入に向け，矢掛町教育委員会で検討していただきたい。

特別支援学級が2クラスになり，在籍の児童がきめ細かな個別的な指導により落ち着いた学習ができている。しかし普通学級にはまだ支援を必要とする児童がいるし，来年度入学する児童にも個別に指導を必要とする児童がいる。来年度の特別支援学級（情緒）への入級希望児童は，多数いる。これらの児童が落ち着いた学校生活を送るために，特別支援教育充実のための加配と，特別支援教育にも対応できる非常勤講師と，町の特別支援教育支援員の複数配置をお願いしたい。

安心して学習できる施設を維持するために老朽化した東校舎の改装，西校舎の雨漏りの修繕と残りの窓の網戸の設置をお願いしたい。また，猛暑の夏の熱中症対策として，各教室にエアコンの設置をお願いしたい。